

特集 世界の 子どもたちは、 いま

～《生きる力》って、なんだろう？～

武力紛争、難民、飢餓、児童労働、HIV・エイズ、子ども買春・ポルノ、ストリート・チルドレン……

世界の子どもたちを、さまざまな問題が取り巻いています。

日本では、犯罪の低年齢化が大きな社会問題になり、少年法の改正などが取り沙汰される一方で、教育分野では、子どもたちに《生きる力》を身につけさせることが重要視されるようになってきました。

いま、子どもたちに本当に必要なものは、何なのでしょう。

大人は、何をすべきなのでしょう。

今回は、「子どもたちは、いま」というテーマで特集を組んでみました。

取材を進めるなかで感じたのは、このテーマが、「大人に今、求められているものは？」という問いと表裏一体であるということです。

みなさんと一緒に考えてみたいと思います。



バングラデシュのストリートチルドレン
(写真提供：シャプラニール=市民による海外協力の会)

ダッカのストリート・チルドレン

インドの隣り、バングラデシュの首都ダッカの人口は約1,000万人。そのうち30万人が親と離れて路上で生活する、5歳から15歳の“ストリート・チルドレン”だと言われています。彼らは、貧困や家庭内の問題を理由に生まれた場所や家族のもとを離れ、路上で、危険と隣り合わせの生活を送っています。

ストリート・チルドレンの暮らし

彼らの多くは、ゴミ拾いや水汲み、パザールでの品物拾い、売春などをして得た現金収入で生活しています。その日の糧を得るために、まだ街が寝静まっている早朝から働き始める子どもも少なくありません。

路上での生活は、常に危険をはらんでいます。時には警察官にまで暴力を振るわれることもある彼らにとって、強盗、レイプなどは、決して遠い世界の話ではなく、いつ誰にでも起こる可能性を持っています。加えて、路上の劣悪な衛生状態は、健康にも悪影響を及ぼします。

子どもたちがストリート・チルドレンになる要因はさまざまです。家庭内に問題があり、自由を手に入れるために自ら家を出て一人で暮らしている場合もあれば、本人の意思によらずに危険な道に引き込まれている場合もあります。また、ある時期バングラデシュ政府が一斉にスラムを撤去したために、そこで暮らしていた家族が散り散りになり、子どもたちがストリート・チルドレンとなったケースもあります。しかし、いずれの場合も、本当は元の生活に戻りたいと思っている子どもが多く、大人たちがそれを妨げる周囲の環境を断ち切り、彼らの自立を支えていくことが求められています。



子どもたちを支えるNGOの活動

「オボロジェヨ・バングラデシュ」という地元のNGOでは、そんな子どもたちを対象に、ダッカ市内、合わせて20ヶ所以上で「ストリート・スクール」を開いているほか、子どもたちの生活をサポートする「ドロップイン・センター」と呼ばれる施設も6ヶ所で運営しています。そこでは、多くの大人達が、ストリート・チルドレンの支援活動に関わっています。教育やカウンセリング、炊飯や洗面場所、宿泊施設の提供、さらには簡単な怪我の治療もするなど、子どもたちが安心して生活する上で必要不可欠なサービスが行われています。子どもたちはこのような場所で、社会生活に必要な知識を身につけ、職業訓練などを経て、路上生活から脱け出そうと頑張っています。

オボロジェヨ・バングラデシュと一緒に子どもたちの支援活動を行っている日本のNGO「シャプラニール=市民による海外協力の会」のスタッフ、藤崎文子さんによれば、このようにして行われている支援活動によって、子どもたちの間に大きな変化が見られるようになったといいます。



活動を始めた当初はなかなか心を開いてくれなかった子どもたちも、スタッフが彼らのもとに足を運ぶことによって徐々に信頼関係が生まれ、自ら進んで施設に顔を出すようになったそうです。その甲斐あって、子どもたちは身の回りを清潔にするようになり、他人と協力するようになり、人前ではっきりと自分の考えを言うようになり、そして何よりも自分自身の未来に希望を持つようになり、将来の夢を語り、そのため

に職業訓練を受けるまでになったそうです。

行動を始めた大人たち

変わっていく子どもたちの様子を見て、周りの大人たちの見る目も変わってきたと言います。以前はストリート・チルドレンを厄介者として扱っていた近所の大人たちも、今では積極的に施設の運営にまで関わってくれるようになりました。

しかし、そこまでの道のりは決して平坦ではなく、地域を巻き込むことは、運営するスタッフにとって最も重要かつ困難な課題だったそうです。スタッフの中には、地域の人たちが運営に参加することに反対する人もいました。しかしシャプラニールでは、地域全体で子どもたちを支援し育てることが肝心だという信念をもって、まずはスタッフを説得し、やがて地域の大人たちを動かすまでになっていきました。

藤崎さんによれば、この活動は一時的なものではなく「子どもたちを将来にわたって支えるために」行っているとのこと。そして「何かあったときにあそこに行けば何



とかなる」と子どもたちに思ってもらえるよう、いつでも門を開いて彼らを待っているのだと言います。しかし、もしかしたら、大人たちが行動を始めたコミュニティは、もう既に、多くの子どもたちにとって、ひとつの居場所となっているのかもしれない。

シャプラニール=市民による海外協力の会
東京都新宿区西早稲田2-3-1早稲田奉仕園内
TEL: 03-3202-7863
<http://www.shaplaneer.org>

戦争の中で生まれてくる 子どもたちの《生きる力》

イラクで戦争被害者等の支援に取り組んでいる日本国際ボランティアセンターの佐藤真紀さんが、バグダッドへ向かう途中、ヨルダンで出会った

イラク人のことを綴った文章を寄せて
くださいました。

ヨルダンのキング・フセイン・癌センターの正面に、道路を挟んで、モーメン・ホテルがある。ここには、イラクから癌や白血病の治療に来ている家族がいるということで、様子を見に行った。退院後、通院している患者とその家族が暮らす。

ヨルダンは、イラクから計30人の患者を受け入れている。20人はヨルダン国王の基金、10人はアメリカのポール・ニューマン財団が、医療費とホテル代を出している。

ホテルのロビーで待っていると、イブラヒムさんに会った。

イラクのバスラからやってきたというイブラヒムさんは34歳。妻のファティマさんがガンにかかっていることが判明したが、イラクではろくな治療が受けられない。もうだめだとあきらめかけていたところに、ポール・ニューマン財団から金が出て、ヨルダンで治療が受けられることになった。3月8日、アンマンに着いた。だが問題は、そのとき既にファティマさんが、妊娠6ヶ月目に入っていたこと。抗がん剤を投与する治療は、胎児に影響を及ぼす。しかし、ファティマさんの治療を早く始めないとガンが進行していく。本格的な治療に入る前に、ファティマさんは帝王切開での出産を迫られた。しかし、妊娠6ヶ月。予断は許されない。ぎりぎりのタイミングだった。4月1日、赤ちゃんは、イスラミック病院で無事に出産、生まれてきた赤ちゃんは双子だった。男の子はムハンマ



ドくん、女の子はカディージェちゃんと言われた。当然、未熟児だったので、76日間も保育器に入れられていたという。

イブラヒムさんが家族を紹介してくれるというので、彼の部屋までついていった。

治療はうまく進んでいるようで、妻のファティマさんも元気そうだった。

赤ちゃんは、ジャバル・フセインのヨルダン人の家族に預けられている。おっぱいをあげることもなく、添い寝もできないの

は、さぞつらからう。

イブラヒムさんと一緒に、タクシーを拾って見に行くことにした。

ヨルダン人の一家を訪ねると、小さな赤ちゃん二人を抱えたおばさんが出てきた。ザイナブさんは、子育てのベテランだ。



「私は、子どもが7人もいますよ。娘が5人。男の子が2人。子育てならまかせてください。うちの娘たちも、赤ちゃんが大好き」

10歳前後の3人の姉妹が、粉ミルクを溶いていた。アラブ社会は、子どもが多いので、上の子が赤ちゃんの世話をするのは当たり前。うまく赤ちゃんにミルクを与えている。

イブラヒムさんが話してくれた。

「この子達は、たった500グラムしかありませんでした。年齢は4ヶ月。まだまだ小さいですね。妻は、ガンのために白血球がゼロです。とても赤ちゃんと一緒にはいられない。それで病院に助けを求めたんです。何とかならないかと。そうしたら、親切な家族を探してくれた。ザイナブさんがいろいろよくしてくれるので、本当に嬉しいです。」

双子の赤ん坊は、母乳を飲んでいないので免疫力が弱いという。風邪などにかかりやすい。一方、母親は抗がん剤の治療を受けているので白血球の数が少なく、赤ちゃんが風邪をひいただけでも感染して致命傷に至ることもあるので、当面は一緒にいることができない。

イブラヒムさんは、毎日、子どもたちの様子を見に来る。しかし、ヨルダンの物価はイラクに比べて高い。ヨルダンでは働くこともできないイブラヒムさんは、赤子のミルク代のことを心配していた。治療費とホテル代はただでも、生活費は底をついて

いる。

ザイナブさんは、「心配しないで。私たちにまかせて」とイブラヒムさんを励ました。

ヨルダン人も一生懸命、ささやかな協力をしている。その姿には頭が下がる。僕たちはつましく彼らを側面的にサポートできればいいと思う。やっぱり「人道支援やってます」などと言って、外国人が仰々しく騒ぎ立て政治的に利用するのはよくないなと思ったりした。

ムハンマドくん、カディージェちゃんは、ミルクを一生懸命飲んでいる。本来ならば、ちょうど今頃生まれたばかりのはず。哺乳瓶に吸い付く姿は、「生きてやるんだ」という赤ちゃんたちの強い意志を感じさせた。

(日本国際ボランティアセンター 佐藤真紀)
日本国際ボランティアセンター
東京都台東区東上野1-20-6丸幸ビル6F
TEL : 03-3834-2388
<http://www1.jca.apc.org/jvc/index.html>

世界の子どもたちの「声」を日本の子どもたちに届けて

桑山紀彦さん(「地球のステージ」代表、医師)に聞く

カンボジア、ソマリア、旧ユーゴスラビア、東ティモール、パレスチナなど、世界各地で緊急医療活動に従事し、そこで出会った子どもたちのことを『地球のステージ』()という歌と映像で伝える活動をしている医師、桑山紀彦さんは、貧困や紛争の中で暮らす子どもたちの《生きる力》について、次のように語る。

「まず、工夫する力からくる充実感ですね。日本と違って既成のものが少ないから、ほしいものは想像力を働かせて自分で作るしかない。次に、情報を共有するコミュニティーの力。例えば、パレスチナのガザでは、どっちから戦車が来るかといった情報を子どもたちどうして共有している。雲が低い日には、戦車の音が実際よりも近く聞こえるということも知っている。

次々に人が死んでいくのを見ていて、子どもたちも運命論者になっていくんです。『いつか、ほくも、いつか、君も...』と。でも、共同体の支えがあるから生きていける。誰かに不幸があっても、その分、誰かが幸せになれると考える、切ないまでの運命の共有が、そこにはある。これがなくて、『なんで自分だけが...』と思うと、生きていけない。『自分は独りじゃない』

と思っているから生きていけるんです」

逆に、日本の子どもたちは、コミュニティとのつながりがないから、孤独になってしまう。「なんで自分だけが...」と考えてしまうのではないかと桑山さんは言う。また、そのコミュニティの中で大人が果たす役割も重要だ。

「どこの国でも、命ぎりぎりまで生きている大人たちが、熱い気持ちを持っています。



東ティモールのクリニックで(写真提供: 桑山紀彦さん)

『幸運だ！今日も私たちは生きている！』という、大人達の前向きな姿勢は、子どもにも伝わります」

日本では、子どもに《生きる力》を求めながら、大人に《生きる力》がないのが問題じゃないかと桑山さんは言う。

「日本でも、小学校の5、6年生はとて元

気だと感じますが、中学校に入ったとたん、ガラリと変わるんです。何かをあきらめたように」「日本では、大人が熱くなっていないですね。子どもたちは、涙を流して泣く大人を見たことがあるだろうか。子どもにどれだけ熱くなっている姿を見せられるかが肝心なんじゃないでしょうか」

「地球のステージ」ホームページ
<http://www.e-stageone.org/index.html>

おすすめ !!

(財)日本ユニセフ協会のホームページ
「世界の子どもたちは、今」
「手を奪われたアミーナの悲劇(チャド)」
「パレスチナの子どもたちのサマーキャンプ」
「セックスが死を招く、自分の命を自分で守ろう - 若者達の活動(コンゴ)」
など、世界各国の子どもたちの様子を写真入りで具体的に知ることができます。また、「人口統計」「栄養指標」「教育指標」などのデータもあります。

<http://www.unicef.or.jp/siryu/sekai.htm>

地球市民フォーラム

「世界の子どもたちは、いま ～《生きる力》って、なんだろう?～」

武力紛争や貧困、エイズなど、厳しい状況で生きる子どもたちの「今」を知るとともに、彼らの《生きる力》を支えるNGOや国際機関の働きについて学ぶセミナー（12月）とフォーラム（1月）を開催します。ぜひ、ご参加ください。

セミナー（ワークショップ）

NGOが開発したゲームなどを通して、世界の子どもたちの現状について学びます。

12月4日（土）
13:00～14:30 A「難民」
15:00～16:30 B「パレスチナの子どもたち」

12月5日（日）
13:00～14:30 C「世界がもし100人の村だったら」
15:00～16:30 D「カンボジアの小学校へ届ける絵本を作ろう！」

12月18日（土）
13:00～14:30 E「地球の仲間たち」
15:00～16:30 F「パレスチナの子どもたち」

12月19日（日）
13:00～14:30 G「フィリピンの山の子どもたち」
15:00～16:30 H「ミャンマーの農作業体験」

いずれの日も、午前中（10:00～12:00）は、世界の子どもたちの現状を伝えるビデオ作品の上映を行います（上映作品は毎日変わります）。

『生きる力を持つ子どもたち～ダッカのストリート・チルドレン』（16分）
『未来をください 戦火の中の子どもたち』（28分）他

フォーラム 1月15日（土）・16日 10:30～17:00

10:30～12:00 映画『戦場の夏休み～小学2年生の見たイラク』
13:00～15:15 若者のボランティア体験談など
15:15～17:00 映画『忘れられた子供たち～スカベンジャー』
15:30～17:00 国際協力座談会

1月8日（土）～16日（日）の間、『アフガン夜明けの国』等の写真展も開催します。

会場：あーさほ

対象：小学校高学年以上（大人も可）

参加費：無料

主催：神奈川県（地球市民かながわプラザ）・
（財）神奈川県国際交流協会

申込み：ワークショップA～Hは、事前申込み優先
その他のプログラムは申込み不要
国際協力課（045-896-2964）

カンボジアスタディツアー参加者募集！

（財）神奈川県国際交流協会では、下記の内容で行うカンボジアへのスタディツアーの参加者を募集しています。

先進国政府機関、NGO団体によって行われている教育分野の国際協力活動を見学するこのツアーに参加して、カンボジアの復興を支える教育援助の取り組みについて考えてみませんか。

実施期間：2005年3月1日（火）～3月9日（水）

場所：訪問国（訪問地）カンボジア王国（プノンペン、プレイベン、シェムリアップ）

旅程：

月日	曜日	旅程
3/1	火	成田空港出発 プノンペン到着
3/2	水	JICA（国際協力機構）在カンボジア日本国大使館・SVA（シャンティ国際ボランティア会）訪問
3/3	木	プノンペン市内観光 プレイベンへ移動
3/4	金	CEAF（カンボジア教育支援基金）現地校（友好学園）訪問
3/5	土	プノンペンへ移動 現地学生との市内観光・交流会
3/6	日	シェムリアップへ移動 アンコール遺跡見学
3/7	月	上智大アジア人材養成研究センターアンコールワット遺跡修復現場訪問
3/8	火	早朝のアンコールワット・西バライ見学 シェムリアップ出発 バンコク到着 バンコク出発
3/9	水	成田空港到着

対象：神奈川県内に在住・在学または在勤する18歳以上25歳未満の方

募集期間：2004年11月1日（月）～11月30日（火）

定員：15名（最低催行人数12名）

書類と面接による選考を行います。

参加費：90,000円

問合せ・申込み：国際協力課（担当：水野）

TEL：045-896-2964 FAX：045-896-2945

E-mail：minsai@k-i-a.or.jp 月曜休み

映画『TAIZO』上映会のご案内 （神奈川県国際交流協会 会員のつどい）



カンボジア内戦の取材中に消息を絶った、戦場カメラマン、一ノ瀬泰造の生涯。

日時：11月26日（金）18:30～20:15（開場18:00）

場所：あーさほ 2階 プラザホール

定員：200名（申込不要、先着順）

入場料：会員 500円、一般 1,000円（前売り 800円）

当日、入会することもできます。

問合せ：国際協力課（担当：木下）

TEL：045-896-2964 月曜休み

神奈川県国際研修センター センター・デー

アジア・アフリカ・中米11か国からの研修生・留学生が宿泊するセンターのお祭です。

日時：11月21日(日) 12:00~16:00

場所：神奈川県国際研修センター(相鉄線二俣川駅下車)

入場：無料

プログラム

12:00~ アジアミニ屋台

13:00~ パフォーマンス

留学生・研修生といっしょにライブ&ワークショップ
いろんなコトバのキャッチボールから、即興でうたをつくってうたいます!

(ライブ演奏&ワークショップ進行:おんらくラボ&旅心音楽団)

午前10:30~11:30、ライブに先立ち、別途ワークショップがあります。参加費無料、参加定員10名。参加希望者をご連絡ください。(申込締切11月10日(水)。応募者多数の場合抽選。ワークショップに参加される方は、13:00からのライブにも参加をお願いします)

研修員ヴィシットさん(カンボジア)

セザールさん(ルワンダ)の歌

タイ&ウズベキスタンのダンス...など。

14:15~ 研修生によるミニ・レクチャー

モンゴルのシティ・ライブ!(14:15~)

ルワンダのこと、義足づくりのこと(15:00~)

14:15~ 留学生と語ろう、10年後はどうなる??

12:00~16:30 展示と歓談のコーナー

民族衣装の試着、留学生による中国茶芸の実演なども。

問合せ・申込み：神奈川県国際研修センター

TEL: 045-366-0157 FAX: 045-366-0164

E-mail: kpitc@k-i-a.or.jp (担当:成田) 月曜休み

プログラムの内容は一部変更になることもありますので、あらかじめご了承ください。

神奈川県国際研修センターは、神奈川県が設置し、(財)神奈川県国際交流協会により運営されています。

五感をみがく表現プログラム

『コマーシャルソングを作ろう!!』

あーだ 355 にある物や自分のまわりにある物の良いところを発見して、そのコマーシャルソングを作ってみよう!

日時：11月28日(日) 10:30~12:30

10:15に集合してください。

場所：集合/あーだ 355 5階 子どもファンタジー展示室

解散/あーだ 355 1階 創作スタジオ

対象：小学1~4年生

定員：20名(事前申込制、先着順)

参加費：無料(常設展示室観覧料100円は必要です)

先生：田島美帆(音楽と動きの教室「シュピールハウス」講師)

問合せ・申込み：地球市民学習課(担当:矢澤)

TEL: 045-896-2898 月曜休み

アートと環境

自然の絵の具で絵を描こう!秋編

公園の中で、地域ボランティアの方々とお話をしながら土や落ち葉などを集めるとともに、地域の環境のことなども考えてみよう!そして、採集した土を絵の具代わりにして落ち葉なども散りばめながら、思い思いにオリジナルの作品を仕上げよう!

日時：11月13日(土)

10:00~15:00

あーだ 355 1階

ワークショップルーム

9:45集合

場所：本郷ふじやま公園

対象：幼児・小学生

定員：保護者とペアで30組

程度(事前申込制で10月12日(火)より受付開始、先着順)

参加費：無料

問合せ・申込み：地球市民学習課(担当:相場)

TEL: 045-896-2899

祝日除く月曜休み

FAX: 045-896-2945

持ち物：お弁当、飲み物、敷物、タオル

服装など：動きやすく汚れてもいい服装と、はき慣れたしっかりした運動靴



食と暮らしの体験セミナー

「めんそーれー!秋山さんとウチナー(沖縄)文化の風に触れよう!」

沖縄独自の文化を知っていますか?沖縄出身の秋山さんと一緒に沖縄の料理づくりに挑戦し、午後には文化・あそびも体験しましょう!

内容は変更することがありますのであらかじめご了承ください。

10:00~お昼 沖縄の家庭料理を皆でつくって食べます。

沖縄そば、ゴーヤーチャンプルー、さーたーあんだぎー

午後1時~2時頃

文化あれこれ~どこの国・地域と似てるかな

言葉~外国語みたい?!

暦・行事~旧暦って?

踊り(エイサー・琉球舞踊)~みんなでカチャーシーを踊ろう!

日時：12月12日(日) 10:00~14:00

場所：あーだ 355 1階 料理室ほか

対象：小学生以上

親子での参加も可。外国籍のかた大歓迎!

大人のみでの参加も若干名ですが受け付けます。

持ち物：エプロン、タオル、ふきん、三角巾(バンダナでもOK)

幼児保育あり(参加者の妹・弟のみ)

定員：25名(事前申込制、先着順)

参加費：ひとり800円(食料費)

問合せ・申込み：地球市民学習課(担当:佐々木)

TEL: 045-896-2899 月曜休み

FAX: 045-896-2945

「草の根国際協力応援バザー」にご協力ください

神奈川県国際交流協会では、今年もNGO活動支援のためのバザーを開催します。売上げは、すべて「かながわ国際協力基金」への寄付金とし、NGO活動への助成のために使わせていただきます。皆様のご来場をお待ちしています（入場無料）。

日時：11月28日(日) 11:00～14:00
場所：あーぢ 3階 企画展示室

ボランティア募集！

品物の仕分け・値札付け（11月24日～11月27日、1時間以上お手伝いいただける方）や、当日の販売（11月28日10:00～15:00）のボランティアを募集しています。

す。ご協力をお願いします。

バザー用品の提供をお願いします

今回のバザーで販売する物品の寄付を募集しています。食品（保存のきくもの）、楽器、玩具（ぬいぐるみを除く）、雑貨など。品物は、11月23日までに、神奈川県国際交流協会事務局まで持参、又は宅配便でお届けください（恐れ入りますが宅配便の場合は送料のご負担をお願いします）。なお、古着、書籍、ぬいぐるみ、暖房器具等は受け付けていませんので、ご了承ください。

問合せ：国際協力課（担当：木下、大塚）
TEL：045-896-2964 月曜休み

2004年度前期 かながわ国際協力基金 助成・協働事業決定（2件）

第1号 NGO等協働事業

『「かながわ国際協力NGOネットワーク・フォーラム」開催事業』

団体：横浜NGO連絡会 支援額：30万円
事業分野：担い手育成

事業概要：神奈川県内で国際協力に関わるNGOの間に顔の見える関係を築き、互いの経験から学び合い、活動の質を高めていくとともに、行政との連携を進めることをねらいとして、多くの関係者が集う「かながわ国際協力NGOネットワーク・フォーラム」を開催する。また、それに先だて、県内2ヶ所で、地域のNGO関係者とともに、

ネットワークづくりに向けたワークショップを実施する。

第69号 助成事業

『外国籍母子の自立を図るステップハウスの運営』

団体：共同の家プラン 助成額：300万円
助成枠：国内協力

事業概要：日本に暮らす外国籍住民や子どもたちがDV被害やさまざまな人権被害に遭い、緊急一時避難施設などを利用した後、精神的・経済的自立にむけて支援する中期滞在型施設「共同の家プラン」を運営する。

神奈川県国際交流協会(KIA)は - 地球のすべての人が、国境や人種、文化の違いを越えて、人間らしく暮らせる社会の実現のため、人と人とのつながりを大切にしたい「国際交流」「国際協力」を推進するさまざまな事業を展開しています。

あなたも会員になりませんか？

協会の活動を支える会員を募集しています。会員になると

協会が主催する各種催しや国際交流団体、NGOの催し情報、ボランティア情報を掲載した『Hello Friends』『サラダボウル』をお送りします。

当協会の出版物の割引サービスが受けられます。

会員の方を対象にした催しへご招待します。『エスニック・レストラン・マップ』をお送りします。

会員証の提示で、提携エスニック・レストランの優待サービスが受けられます。

あーぢのレストラン「メルヘン」でお食事の場合、会員証の提示で、コーヒー、紅茶、グラスワイン、ソフトドリンクの一品サービスが受けられます。

あーぢ ショップ「ベルダ」で2,100円以上（税込）購入の場合、会員証の提示で10%割引が受けられます。

年会費：一般	3,000円から
学生	1,500円から
団体	10,000円から

* 会員登録をご希望の方は、協会までお問い合わせください。振込用紙など関係資料をお送りします。

当協会は、2003年4月より、あーぢの施設運営を含めた全事業を神奈川県から受託しました。

地球市民メッセージコンテスト(ポスター・作文・主張)審査結果発表 ポスター作品展示会

審査の結果、次の作品が選ばれました。

ポスター優秀賞受賞者(敬称略)：

<小学生> 梅澤明弘、片岡星太、曾屋裕徳、荒井宏允、平井智子、石井麻穂

<中学生> 村岡美紗都、中村葵、亀井綾那

<高校生> 八代萌

この他、佳作21点、努力28点が入賞しま

した。

作文優秀賞受賞者(敬称略)：

森川菜摘(中3)、樹神くるみ(中3) この他、優秀作品8点、佳作10点、努力10点が入賞しました。

主張受賞者(高校生・敬称略)：

山本歩惟(最優秀)、金理央(優秀)

ポスター作品展示会：今回入賞したポスター作品は、12月11日～12月

19日の間、あーぢ 3階企画展示室で展示します。入場無料です。



このほか、神奈川県国際研修センターと神奈川県国際学生会館を運営しています。

Hello friends 2004年11月1日発行
第241号

発行/財団法人 神奈川県国際交流協会
〒247-0007
横浜市栄区小菅ヶ谷4丁目2番1号
神奈川県立地球市民かながわプラザ1階
045-896-2626 FAX.045-896-2945
URL: http://www.k-i-a.or.jp
E-mail: kikaku@k-i-a.or.jp
印刷/株式会社エイコープリント

キャラバン・サライ
「地上へ行きたいんだけど、私が行きたいのはどこかな？」と地上の世界の様子を色々見て、場所や両親を選んで生まれてくるんだそう。ふん、子どもたちは生まれてくる場所や親を選ばないのか？私もそうだったのかな、この下りを読んで不思議な気持ちになった。
小貴さんは次のようにも書いてる…人間にとって、これも時代が長いのは、子どももうちにしなきゃならないことがたくさんあるからで、「これも時代」が幸せな時間じゃなかったら、どうしてそんなところに生まれて来たいと思えるの？子どもが幸せを満喫できることに、大人も一緒に喜ぶ合える感覚がなければいけない。
私がこの国に生まれたのはなぜ？小さい頃からの悩みだ。でも「ステキなところがあるぞ！行ってみたい！」と天使たちに思ってもらえるようなところであるよう何かしていききたいな。だから私はここに生まれて来たのかも知れないな。(国際協力課・大塚 晶)

キャラバン・サライとは、かつてシルクロードにあった隊商宿。文化・情報の中継点となっていました。協会職員からのメッセージ発信の場となるよう名付けました。